



マイコプラズマ肺炎が流行しています！

昨年冬から今年にかけて数年ぶりにマイコプラズマ感染症による肺炎が流行しています。マイコプラズマ肺炎は発熱や咳などの呼吸器の症状が続きますが、比較的軽症で病初期には診断が付きにくく流行することがよくあります。今回は、マイコプラズマ感染症についてお知らせします。



Q1 どんな病気ですか？

マイコプラズマという細菌による感染症です。空気感染または接触感染をして、気管支炎や肺炎を起こしやすい病気です。肺の「間質」という組織に炎症が起るため聴診器で聞いても、ゼロゼロという痰のからむ音は聞こえにくく、はじめは肺炎の診断が着きにくい病気です。数年毎に流行が見られます。(図1)

Q2 症状は？

しつこい咳と発熱です。熱は朝下がって午後～夜にかけて38～39℃に上昇することが多いようです。体のきつさはありますが、比較的元気にしていることも多く、胸部レントゲン写真を調べて初めて肺炎の診断がつくこともあります。

Q3 肺炎になったら入院するのですか？

ほとんどは入院の必要はありません。比較的軽症の人が多く外来治療で良くなります。抗生剤の内服、ないしは長引いていれば抗生剤の点滴注射で治療します。

Q4 潜伏期間、好発年齢は？

潜伏期間は2～3週間と結構長く、流行が徐々に広まり、なかなか収まらないことがあります。大人もかかりますが、幼児期、学童期～青年期に多く見られます。(図2)



Q5 一度かかると、もう罹りませんか？

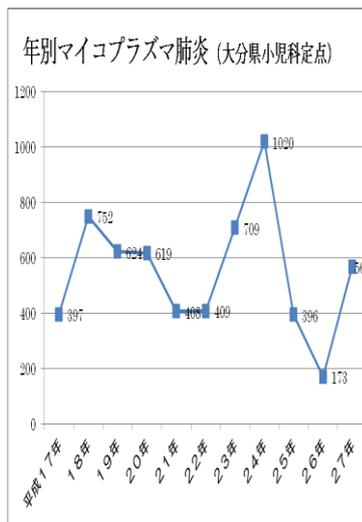
一度の罹患で十分な免疫ができないために、何回もかかることがあります。ただ2～3年前に罹っているとかかりにくいようです。

Q6 診断は？

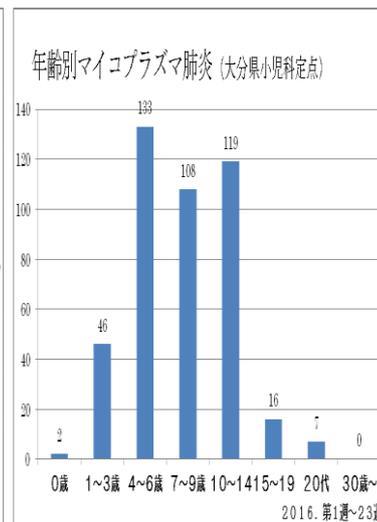
上記の症状と共に、胸部レントゲン写真で診断しますが、最近は割と感度の良いマイコプラズマ抗原の迅速検査が出現し、咽頭を綿棒による咽頭ぬぐい液の検査により15分程で分かります。ただこれは、絶対ではありません。

Q7 出席停止になりますか？

出席停止になります。きちんと届けて下さい。登園・登校の目安は、解熱後丸2日以上たってからになります。解熱後も咳が長引くことが多く、あまりにひどい時はもう少しお休みさせてください。



(図1)



(図2)